

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が8月28日に公表されました。本校の6年生の結果及び分析内容について保護者の皆様にお知らせします。

全国(公立)及び静岡県(公立)の平均正答率との比較

	全国	静岡県	土肥小学校
国語A	74.8%	74%	全国の平均を上回っています。
国語B	57.5%	59%	県の平均を上回っています。
算数A	78.6%	78%	全国の平均を大きく上回っています。
算数B	45.9%	46%	県の平均を上回っています。



各教科の分析

国語A	<p>「読むこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問題では正答率が高く、ほぼ定着が図られていました。一方で、①『互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う』といった「話すこと・聞くこと」に関する問題や②『手紙の構成を理解し、後付けを書く』という「書く能力」に関する問題では正答率が低く、課題として捉えています。</p> <p>①については、国語の授業だけでなく、学活等の話し合い活動の中でも、グループや学級全体の問題解決などに向けて、司会者や提案者、参加者などの役割を決めて話し合いができるようにしていきます。</p> <p>②は表書きに宛て名や住所などを正しく書くことや、後付けにおける署名と宛て名の位置関係を押さえることにとどまらず、「宛て名を最終行の上の位置に書くことで相手への敬意を示すことにつながる」など、手紙の形式がもつ意味についても再確認します。</p>
国語B	<p>全体的に県や全国平均正答率を上回っている問題が多かったです。その中で、①『目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える』②『登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える』の問題は、僅かですが平均を下回っていました。</p> <p>①については、授業はもとより、日常生活の中でも多様な情報から取捨選択し、筋道を立てて友だちに音声や文字で説明する場面を設定していきます。</p> <p>②については、読書量が影響していると考えられます。伊豆市読書百選への参加や必読書の読破、家庭読書の日などを通して、読書のより一層の奨励をしていきます。</p> <p>記述式の問題の正答率が低くなっています。全国や県でも同様の傾向がみられますが、これは単に問題の内容が難しいだけでなく、必要な事柄をきちんと入れて自分の考えを簡潔に「書く」力が十分に育っていないことが考えられます。「書く」学習にも力を入れて指導していきます。</p>
算数A	<p>全体的に県や全国平均正答率を上回っている問題が多かったです。正答率が比較的高いのですが①『具体的な問題場面において、乗法で表すことができるふたつ以上の数量の関係を理解している』②『高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している』③『資料を二次元表に分類整理することができる』は県や全国平均を下回っていました。</p> <p>②については、複数個の解答があるのですが、ひとつだけしか選択していないという誤答が多くみられました。問題文をよく読んで取り組むように指導を続けます。</p> <p>③については、資料をふたつの観点から分類整理していくことを丁寧に指導していきます。</p>
算数B	<p>いくつかの問題で県や全国平均正答率を大きく上回っていましたが、①『示された条件を基に、適切な式を立てる』②『割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる』③『身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる』は県や全国平均正答率を大きく下回っていました。</p> <p>①は示された条件を十分に理解せずに立式しているのではないかとと思われる解答が多くみられました。見いだした数量の関係が、ほかの場合でも成り立つかどうかについて、確かめることも指導していきます。</p> <p>②は①と同様に、問題文の条件を十分読み取れていないと思われる解答が多くみられました。問題文の読み取りに力を入れる必要を感じています。また、示された資料を解釈し、目的に応じた表やグラフに作り直したり適切な表やグラフを選択したりする学習を充実させます。</p> <p>③は、割合(百分率)の理解が十分でないと思われる解答が非常に多くみられました。また、自分の考えを筋道を立てて説明する(書く)ことに慣れていないようです。時間をかけて、丁寧な復習と書く練習をする必要があります。</p>

児童質問紙より

以下、「普段」とは「月～金曜日」を意味します。

- 朝食を毎日食べている子供がほとんどですが、日によって寝る時刻が違う子供が40%います。『テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか』に対して「全くしていない」と回答している子供の割合が全国平均17.4%に対して40.0%でした。ルールがないことが生活のリズムが整わない要因のひとつかも知れません。生活のリズムが整っていることはとても大切で、整っていない子供との学力調査結果の差は非常に大きく、歴然としています。「早寝、早おき、朝うんち」を合い言葉に、子供たちが規則正しい生活ができるよう、ご協力をお願いします。
- 『自分には、よいところがありますか』に対して「当てはまる」と回答している子供の割合が、全国平均38.6%に対して20.0%でした。全体的に自尊感情が低く、自分に自信をもっていないことがうかがえます。学校では、お互いを認め合う集団作りや、達成感を味わえる活動や行事の設定を積極的に進めます。家庭でも、達成感が味わえるような役割を与えたり、がんばりを認め、ほめてあげたりしてください。
- 『家で、①自分で計画を立てて勉強をしていますか ②学校の宿題をしていますか ③学校の授業の復習をしていますか』に対してほとんどの子供が「している どちらかといえばしている」と回答しています。このことから、子供たちが宿題となっている自学の内容として授業の復習に力を入れていることがうかがえます。
- 『学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか』『友達との約束を守っていますか』に対してほとんどの子供が「そう思う」と回答しています。子供たちの人間関係が良好であることがうかがえます。
- 『学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか』に対して「10分以下」と回答している子供の割合が40.0%でした。『読書は好きですか』に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子供の割合は、全国平均と比べてやや低くなっていました。読書が好きな子供ほど、学力が定着しているという結果が出ています。少しでも本に親しむように、本校では、家庭学習における音読や家庭読書の日の設定、伊豆市読書百選への取組、必読書の読破、保護者やボランティアによる読み聞かせなど、読書を推奨していきます。
- 『新聞を読んでいますか』に対して「ほとんど、または、全く読まない」と回答している児童の割合が80.0%でした。県や全国平均約60%と比較すると、新聞から得る情報（ニュース等）はほとんどない子供の割合が高いことがうかがえます。一方で『テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか』に対しては「よく見る、時々見る」の割合が80.0%でした。このことから、子供たちは、活字よりも、映像や音声から時事情報を受け取っていることがわかります。
- 『外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか』に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している子供の割合が全国平均約70%に対して46.7%でした。『将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか』に対して「そう思わない」と回答している子供の割合が60.0%でした。

様々な分野で国際化が急速に進み、グローバル化の波が押し寄せてきています。ふるさと土肥を愛する気持ちとグローバル化に対応できる人間の育成を目指し、指導をしていきます。
- 『国語の勉強は好きですか』に対して「当てはまる」「やや当てはまる」と回答している児童の割合が40.0%で全国平均約60%と比較して低い水準でした。しかし、国語の勉強は大切であり、将来、社会に出たときに役立つと思っている児童の割合は、県や全国平均と同水準でした。

『算数の勉強は好きですか』に対して「当てはまる」と回答している児童の割合が60.0%で県や全国平均約40%と比較して高い水準でした。算数の勉強は大切だと全員が思っており、ほとんどの子供が、将来、社会に出たときに役立つと思っています。